

平姓
犬塚 本氏千葉

千葉介常胤八代千葉三郎常久吉
嫡男

胤光

千葉六郎

権現様江遠州濱松ニ而被召出武田信玄与
御一戦之節依軍功三州之犬塚村を被下氏ヲ
犬塚ニ改

胤形

犬塚十右衛門

初重形

天正十七丑年二月三州幡豆郡高九千
石御預り其節高三百石被下慶長十八
丑年十二月十八日死其節伴覚兵衛ニ葬
三州幡豆郡中嶋村浄光寺
歳ニ付家断絶

胤則

初重則

覚兵衛

覚右衛門

肥前国天草一揆御誅罰之時板倉内膳
正手ニおいて戦功

覚兵衛胤則覚書

寛永十四丑年肥前国於嶋原之城天草
四郎大夫一揆ヲ發シテ諸牢人士民等ヲ集メ
都合三万七千餘之人数ニ而松倉長門守城ヲ
乗取楯籠ル是ニ仍テ為打手板倉内膳正
石谷十蔵ヲ被差遣候右内膳正之旗下ニ
族シテ粉骨ヲ畫シ相働内膳正每度賞美
之然ニ翌寅正月朔日内膳正討死之節
覚兵衛胤則城之堀際を一所ニ附参り
内膳正死骸ヲカコイ退ル時證據人印奥
左太夫と言葉ヲ合セ一揆之者大勢切拂
本陣江引返ス同二月板倉主水佐江十文
字之鎗覚兵衛持参主水佐ニ相渡シ夫ヨリ
先懸テ太刀ニテ首ヲ取井上筑後守家来
岡部右馬允板倉周防守家来鈴木
茂右衛門ト言葉ヲ合依テ證據之状ニ通
取リ天草退陣之後板倉主水佐方ヲ退
江戸市ケ谷八幡下ニ住居仕候
證據之状写

以上

一筆致啓上候二月廿八日之朝

於本丸 御働無比類高名

慥 見申し何方々も御尋候は

其段可申達候恐惶謹言

三月二日

重名

板倉周防守内

鈴木茂右衛門

板倉主水佐様御内

犬塚角兵衛様

御???

鈴木茂右衛門殿上神谷傳右衛門殿へ

御同場之儀申入候以上

御状拜見申候二月廿八日

於本丸先掛之働

無比類高名慥見申候

何方も御尋候はば其段可申

達候恐惶謹言

井上筑後守内

岡部右馬允

正忠
(花押)

板倉主水佐様御内

犬塚角兵衛様

御??

寛文元丑年九月被召出高百俵

清揚院様江被為附甲府御城御番此時

覚右衛門与改○延宝元丑年五月隠居

○貞享四卯年六月廿二日死甲州山梨郡

東光寺村歸命院葬

以下略